

# 「勇気づけのピアノレッスン」 No.20

今年も芸術の秋がやってきました。音楽を楽しむには最適な時期。さて、この秋、どのように生徒さんやお子さんと音楽を楽しまれる予定ですか？

## ＝自ら音楽を演奏されていますか？＝

発表会等で講師演奏をされている先生も多いと思います。そんな先生を見て、生徒さんも保護者の方もきっと喜ばれていることでしょう。また事情があって、なかなか演奏はできないという先生もいらっしゃるかもしれませんね。私自身、子育て期間中は演奏の練習時間が全く取れませんでしたし、先生方それぞれのご事情もあるので、講師演奏はしなければならないというものではないと思います。ただ、もし都合がつかないのであれば、先生ご自身が努力され、音楽を心から楽しむ姿を是非とも生徒さんに見せていただけたらと思うのです。それが生徒さん達にとって、何にも変えることのできないかけがえのない体験となります。

## ＝演奏を楽しむ姿を見せることの意義＝

そうは言っても、人前で弾くことは、とてもプレッシャーがかかりますね。学生時代とは違い、練習に思っきり時間をかけるようなことはできないですし、他にもこなさなければならないことが多い私たちおとなにとって、それは少しハードルが高いことかもしれません。ですから、躊躇してしまうお気持ちもとてもよく理解できます。そういう場合は、レッスンの合間にも、生徒さんに先生のピアノを聴かせてさしあげてはいかがでしょうか。レッスンで扱っている曲でも良いですし、

ちょっと有名で聴き映えのする曲などでも良いと思います。きっと生徒さんたちは、目を輝かせて聴いてくれることでしょう。完璧に弾けなくてもいいんです。自信がなかったら、曲の一部だけだつて、きっと喜んでくれると思います。ちなみに私は、ここ数年、ピアノと歌のライブコンサートを主催しています。拙い演奏ではありますが、生徒さんや保護者のみなさんに「生演奏はとても良いものですね。」と、嬉しいご感想をいただいています。

## ＝一緒に弾いたらもっと楽しい＝

レッスンの中に連弾を取り入れている先生も多いと思います。生徒さんは先生と一緒に連弾することで、音楽的な感覚も身につきますし、呼吸のタイミングを合わせる大切さや、一人では奏でられない美しい音の響きを味わうことができ、一石二鳥どころではない効果が得られることでしょう。時折、私は中学生・高校生の初見の練習に、簡単な連弾譜を取り入れているのですが、楽しみながら力がつく、と好評です。このように、私たちおとなが積極的にピアノを弾くことで、生徒さんや子どもたちは、もっとピアノに興味関心をもってくれると確信しています。子どもは、おとなが言っていることはやらないけれど、おとながしていることはするそうです。また、アドラー心理学では「不完全を受け入れる勇気をもちましよう。」と提案しています。先生や保護者がほんの少し勇気を出して、自ら音楽を楽しむ姿を積極的に子どもたちに見せたいものですね。

## 松井美香

元気と笑顔がトレードマーク「勇気づけの音楽家」・音楽指導者・教育カウンセラー・「藤沢勇気づけの会」代表。東京音楽大学ピアノ専攻卒業。  
 <HP>～松井美香ピアノ教室～ <http://matsuumika-piano.net/>  
 <Facebook> <https://www.facebook.com/mika.matsui.94>  
 <ブログ>「勇気づけ 100 の指導法で子どもと親の自己肯定感を育てる」 <http://ameblo.jp/makeeachangewithlove>  
 <メールマガジン無料配信中>「ピアノの先生のためのモチベーションアップ術」  
 ※ブログの登録欄にメールアドレスと氏名を書き込むと定期的に購読できます。

有名なピアノ曲に  
手軽にチャレンジできる  
参考演奏CD付き  
ピアノ名曲集が新登場!

## 弾きたい！聴きたい！定番のピアノ名曲 弾きたい！聴きたい！憧れのピアノ名曲

編：編集部 演奏アドバイス：黒田篤志



■各 菊倍判 / 48頁 / 本体価格 1,000円(税別) / CD付き

### ◆弾きたい!聴きたい!定番のピアノ名曲収録曲

- ・エリーゼのために(ベートーヴェン)
- ・トルコ行進曲(モーツァルト)
- ・乙女の祈り(バダジェフスカ)
- ・アラベスク 第1番(ドビュッシー)
- ・小犬のワルツ(ショパン)

ほか全10曲

### ◆弾きたい!聴きたい!憧れのピアノ名曲収録曲

- ・ノクターン 第2番 変ホ長調(ショパン)
- ・月の光(ドビュッシー)
- ・樅の木(シベリウス)
- ・愛の夢 第3番(リスト)
- ・アイ・ガット・リズム(ガーシュウィン)

ほか全10曲

新発売

参考演奏  
CD付き

編集部のつぶやいたー!

運動会の季節ですね。運動会と言えば、皆さんはどんな曲を思い浮かべますか？私はガーナ民謡のチェツェツェコリです。近所の学校から聞こえてくる音楽を聞き、流行りを知る今日この頃…。(あ)

Twitter [@gakken\\_music](https://twitter.com/gakken_music) 日々のよしなしごとや最新情報をツイートしています!

Web版もあがる 10月号 2015年9月25日

おんがく通信

Gakken 株式会社学研パブリッシング 音楽事業室  
 学研パブリッシングは10月1日より学研プラスに社名が変わります  
 〒141-8412 東京都品川区西五反田 2-11-8 16階 TEL: 03-6431-1220

学研 おんがく .net  
<http://gakken-publishing.jp/ongaku/>  
 電子書籍ストア 学研 BookBeyond  
<http://bookbeyond.jp/>  
 twitter @gakken\_music  
 Facebook gakken.music

久しぶりに絵の具を使って絵を描きました。水入れは埃を被っていて、絵の具は乾燥しているのが何本かありました。筆使いが鈍って綺麗な線が描けずイライラ。少しでも描き続けることが大切…と実感した今日この頃。(お)

## 吉松隆の楽しみ方



吉松隆さん。日本を代表する作曲家。NHK 大河ドラマ「平清盛」のテーマ音楽は未だに印象に残っていますし、2013年には「還暦コンサート」が大きな話題になりました！（わたくし的に、還暦という言葉がこれほどしっくりこない方もいないと思うのですが…）

さて、その吉松さんのイラストと文章による、楽しいクラシック音楽入門書『図解クラシック音楽大事典』（2004年刊）が、大改訂を加え復刻されました。書籍の詳細はまた別の機会にご紹介するとして、この出版を機会に、2回に分けて、「吉松隆を分析」してみることにしました（何しろとてもとても興味深いお方なのです）。

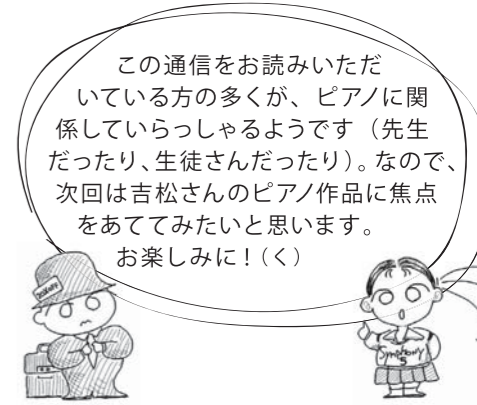
交響曲（ご本人は交響曲作曲家、シンフォニストと称していらっしゃる）、協奏曲のほか、鳥シリーズ（鳥は吉松さんの音楽の師匠なのです）や、ピアノ曲や室内楽曲など、数多くの名曲を書かれている吉松さん。実は5人の「ヨシマツ」さんがいて、それぞれが、それぞれのお仕事をしているそうです!!

まず今回はその5人の「ヨシマツ」さんをご紹介します。

- ヨシマツ1号：抒情派で感傷的な、軟派のロマンチスト。耽美主義者。→「朱鷺によせる哀歌」「メモ・フローラ」「夢色モビール」など
- ヨシマツ2号：ひねくれていて、皮肉屋。攻撃的な硬派の人格。「現代音楽撲滅協会」をやっているのは彼→「ドーリアン」「交響曲第3番」「アトム・ハーツ・クラブ・カルテット」など
- ヨシマツ3号：冷静で分析的。コンピュータを駆使して楽譜を書き上げたり、ショスタコーヴィチのスコアから暗号を解読もする。律儀で無遅刻無欠勤の真面目人間。→「A」にこだわる「プレイアデス舞曲集」は彼の仕事の典型
- ヨシマツ4号：1号から3号までに仕事をさせ、自分は酒を飲んだりマンガを描いたりしているエビキュリアンの人格。→なので、作品はない（編集註：でも彼がいなかったらこの書籍は生まれていない）。
- ヨシマツ5号：最近登場。4号までを統合する鵜を操る鵜匠的な存在。

—以上、小社刊「図解クラシック音楽大事典（旧版）」より

吉松隆 交響曲工房 <http://homepage3.nifty.com/t-yoshimatsu/>



## ピアノの森から

\*田丸信明先生のすてきなオリジナル曲をご紹介します\*

## 第17回

今月は、昨年秋（強いて言えば9月号）にご紹介したいと考えていた「9月の森の妖精たち」（田丸信明 作曲）をご紹介します。「新訂ピアノの森」第5巻に収録されている曲ですが、旧版にも「プレリュード（9月の森の妖精たち）」として収録されており、改訂を機にタイトルを変更しています。夏の終わり、秋の入り口、陽炎のゆらめきは行き来する妖精たち…？「プレリュード」の自由さそのまま、幻想的な雰囲気曲です。(か)

今日は何の日?

1905年  
10月15日

# 《海—管弦樂のための 3つの交響的素描》<sup>(ドビュッシー作曲)</sup> 初演



Claude Achille Debussy (1862 ~1918)

印象主義音楽の代表作ともいえる管弦楽曲《海—管弦樂のための3つの交響的素描》は、フランスの作曲家クロード・ドビュッシー(1862-1918)の作品です。「作曲家にならなかったら船乗りになっていた」というほど、海への思い入れが強く、独特な色彩感覚で海の様子が描かれています。3つの楽章からなり、第1楽章「海の夜明けから真昼まで」、第2楽章「波の戯れ」、第3楽章「風と海の対話」という副題が付けられています。この曲は、1903年の夏、当時の妻リリの実家(ブルゴーニュ地方)で書きはじめました。ブルゴーニュ地方は陸に囲まれているため海がなく、ドビュッシーの記憶をもとに書き進められたそうです。1904年にリリを捨て、著名な銀行家夫人のエマ・バルダックとジャージー島へ駆けおちをします。その後1905年3月5日、ドーヴァー海峡の海辺に面したイースト・ボーンで完成させました。初演は、1905年10月15日にカミーユ・シュヴィヤール指揮、ラムルー管弦楽団の演奏によって行われました。エマとのスキャンダルがあったため、オーケストラ団員は作品と向き合おうとせず、演奏の出来はイマイチ。聴衆や批評家の反応も賛否両論だったそうです。3年後の、ドビュッシー指揮、コロヌ管弦楽団による再演では、作品の価値が認められ、印象主義音楽、そして20世紀の音楽を代表する作品となりました。余談ですが、ドビュッシーが生粋の日本オタクだったことは有名です。《海》の初版のスコアには、葛飾北斎「富嶽三十六景」の『神奈川沖浪裏』を装丁に使うことを希望し、模写が採用されました。《海》のあと、1907年に作曲された《金色の魚》は漆芸品から着想を得て書きあげたりと、日本で生まれた作品に多大な影響を受けました。(の)

## 今月のあかね先生

### 「丸子あかね先生ってどんなひと？」

～あかね先生とピアノのおはなし その③～



先月号に引き続き、あかね先生の高校時代のお話を伺います。部活動でマーチングバンドに所属されていたあかね先生。一体何の楽器を担当されていたのでしょうか？

【丸】：丸子あかね先生 【ゆ】：担当者

【ゆ】「先生、マーチングバンドでクォード\*をやりたいかったのですが、実際は何の楽器を担当されていたのですか？」

【丸】「スネアドラムです！」

【ゆ】「おお～!! スネアドラムを演奏されるあかね先生…ぜひ見たいです～！」

【丸】「(笑)」

【ゆ】「マーチングバンドって、スネア担当と決まらずとこの楽器をやるのですか? 吹奏楽などでは、パーカッションの方はさまざまな打楽器を演奏されますよね。」

【丸】「私は、音大に行く決めてからピアノの練習が忙しく、マーチングの練習ができなくなったので、マネージャーをやっていました。」

【ゆ】「マネージャー…裏方に回ってバンドを支える役割ですか？」

【丸】「コーチに習いながら耳コピして譜面を起こしていました。」

【ゆ】「耳コピ…さすがあかね先生です。ちなみに、大会などはありましたか？」

【丸】「ありました。全国大会まで進みましたよ。」

【ゆ】「素晴らしいですね! 誰もが夢見る全国大会…青春ですね。ほかにも何か思い出やエピソードなどありましたら教えてください。」

【丸】「忘れられない思い出といえば、ディズニーランドで演奏したことです。直接お手紙を書いてお願いしたんです。」

【ゆ】「直接お手紙!? その行動力に感動です!! それにしてもディズニーランドで演奏なんて、本当に素敵ですね。」

【丸】「そうでしょ～。当時はマーチングバンド自体まだめづらしかったですね。本当に楽しかったですよ!」

\*クォード：タムが4個付いた楽器のこと。

### \*今月のセミナースケジュール\*

10/15(木): [京都府/京都] JEUGIA 三条本店 『子どもが飽きない「リズム」のレッスン』 <リズム・セミナー/導入編>

10/21(水): [愛知県/名古屋] 河合楽器製作所 カワイ名古屋 『「譜読み」の基本を身に付けるレッスン』

10/27(火): [千葉県/柏] 伊藤楽器 ららぽーと柏の葉センター 『楽しくおぼえる「おんぶ」と「けんぱん」のレッスン』

プロフィール●丸子あかね

桐朋学園大学演奏学科ピアノ専攻卒業。大阪芸術大学非常勤講師。一般社団法人全日本ピアノ指導者協会川越支部長。かわこえ時の鐘ステーション代表。ピティナ・ピアノコンペティション課題曲選定委員/審査員/ステップアドバイザー。「あかねピアノ教室」主宰。



編集部がおすすめ・紹介する

## 秋にぴったり! のクラシック・ピアノ

暑さがやわらぎ、青々と茂っていた葉は赤や黄色の鮮やかな色へ変化し、だんだんと秋の陽気を感じるようになりました。今月号から季節ごとに、編集部スタッフがいろいろな角度から“季節に関するピアノ作品”をご紹介します。今回はスタッフ4名が、秋にぴったりの曲をそれぞれ選曲しました。スタッフのおすすめが、あなたのお気に入りの1曲に加わりますように。(の)



ベートーヴェン：ピアノ・トリオ「大公」  
(演奏：スーク・トリオ)

最近、室内楽をよくききます。ベートーヴェン、シューベルト、ブラームス…などなど、作品の構造がくっきりと見えてきて楽しくてしかたがありません。そうした中、ピアノを伴う作品をきいていて、その存在感に圧倒される演奏に時々出会います。ソロで大きく以上に、室内楽において、この楽器の懐の広さ、繊細さが現われるような気がします。ピアノ曲ではありませんが、そんな演奏に出会えた1曲をご紹介します。(く)

ギロック：《叙情小曲集》  
第12曲「秋のスケッチ」



秋と言えば! なんとと言ってもギロック《叙情小曲集》の第12曲「秋のスケッチ」です。小学生(高学年…?)のとき秋の発表会で弾いた曲で、非常にメランコリックな、秋らしい憂いを帯びた美しい曲なのですが、その麗しさが小学生の(か)にわかるはずもなく…。この曲の素敵さに気づいたのは発表会が終わってずいぶん後のことだったと思います。さらにこの発表会では第18曲の「まぼろしの騎士」も弾いたのですが、わたしは当時シューマンの「勇敢な騎士」が弾きたかったのに、騎士ちがい?で大違い。どうしてこの選曲になったのか…、とにかく盛り下がった発表会の哀切に満ちた思い出の曲たちです。(か)



エルメンライヒ：「紡ぎ歌」

私の“秋におすすめのピアノ曲”は、エルメンライヒ作曲「紡ぎ歌」です。秋の訪れとともに、前奏の軽快で躍動感のある8分音符が脳裏に浮かびます。紡ぎ歌は、秋に収穫された綿から糸を紡ぐときに歌う曲のこと。小学生の頃にレッスンの課題で与えられたのですが、所々に登場する16分音符がうまく弾けず、「(の)ちゃん、太い糸ができてしまいそうだね…」とちょっぴり残念なコメントをもらったのも、よい思い出です。(の)

ドビュッシー：  
《ベルガマスク組曲》より「月の光」



足元で落ち葉がカサカサと音を立て、頬をなでる風がひんやりしてくると「あぁ、もうすっかり秋なんだなぁ」としんみりした気分になってきます。あったかいココアをふうふうしながら叙情的な曲にうっとり耳を傾け、芸術の秋を満喫…なあって贅沢なひとときを過ごしたいものです。ドビュッシーの優しく柔らかい音色は、歳を重ねるほど深く心に染み入り、ほっこりと暖かい気持ちにさせてくれます。少し寒い日には「月の光」を聴いて暖まってみていかがでしょうか?(な)

## つむりの練習手帳

夏休みも終わりが見える今、ボクもつむりも例年通り終わりが見えない宿題とたたかっています。当然、ピアノの練習はサボりっぱなし。どうせ練習できないからって、せっかく今年は早めに発表会の曲を決めてもらったのに、これじゃ発表会も例年通りハラハラドキドキになっちゃうね。(トホホお兄)

つむり現在の楽譜  
☆ハノン・ピアノ教本  
☆ル・クーペ  
ピアノのアルファベット

## 編集部チョイスおすすめの1曲

おちばのひこうき (田丸信明)

レベル:★☆☆☆

いちよの葉、もみじの葉、けやきの葉…。いろいろな“おちばのひこうき”を飛ばせる季節になりました。秋におすすめの1曲です!

掲載楽譜→びあのどリーむ1

